

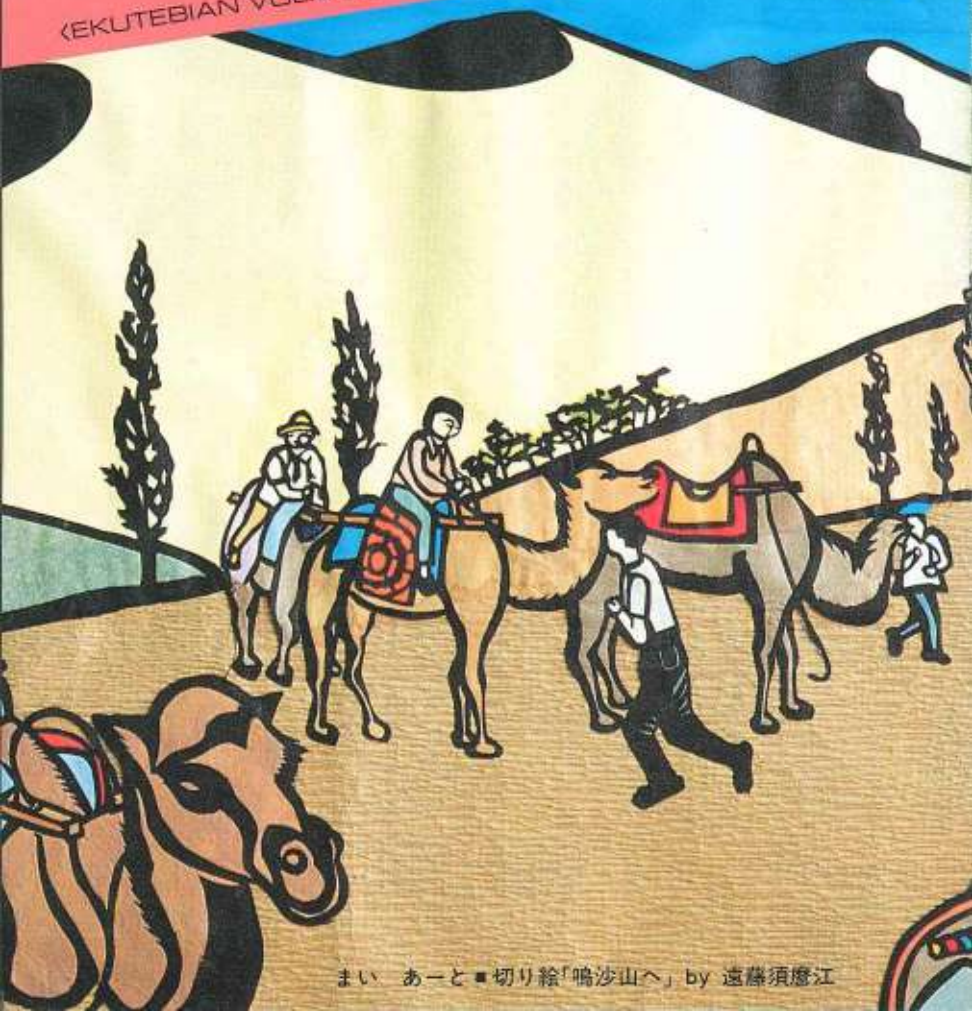
月刊

立川と語ろう 立川に生きよう

えくてびあん

8

〈EKUTEBIAN VOL.9 AUGUST 1991-EKUTEBIAN〉



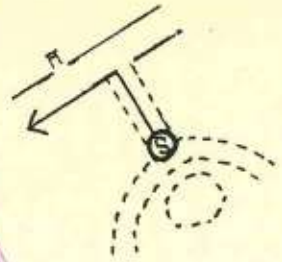
まい あーと ■ 切り絵「鳴沙山へ」 by 遠藤須磨江



公園での関門。設問はゴールしてから。観察力が勝負。



「一歩ゆかゆか」 都立中央大、池袋駅西口
(江三好社建設事務所) 企画ゆかゆか



が待っている。ちよっ
びりハードでスリリン
グ。歩きながら、隔か
ら隔まで知りぬいて
たとおもっていた「立
川」の意外な一面を覗
いたり。みんな「いい
汗」をかいてました。



ウォークラリーが面白かった



入賞者は青木市長からも祝状を受け。

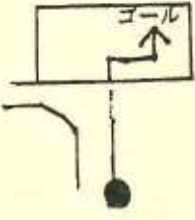
漫然とした「散歩」
とは、ちよっと違う。
かと云って、デッドと
ートを伴うような競走
でもない。与えられた
地図の通りに歩いて行
き、所どころに関門が
あってクイズ風の設問



スタート前、大会役員の方から諸注意があ
る。初めて参加する人の少し不安そう。な顔。



クイズの関所。一枚目の写真と二枚目の写真を見
較べて、相違点を指摘する。ココッ!



チームを組んでいても時々、意見
がわかれてこれでもいいのかなあ。

次は『柔道王国』か?

森 幸夫七段が 受賞を機に構想かたる



先ごろ講演能性例の「全国柔道高段者大会」で二十回出場という偉業をなしたとげた森七段(羽衣町)が表彰された。現役での活躍と同時に、後進の指導こそ急務と「王国」建設のゆめを語る七段。相撲界に続いて「強豪・立川」となれるかどうかが、この指導者に負うところが多い立川の柔道界だ。

この春から、正式に市の柔道連盟の会長になった森 幸夫七段の柔道歴は先ずもって一流中の一流と云ってよい。明治大学といえは当時、全国から強豪ばかりが集まっていた。その中で鍛えられ、社会人になって二年目の24才ですてに5段を獲得していた。

しかし、当の森七段は「自分はカメのような存在だと思ってる。じっくり修練をつんでウサギに追いついていきたい」と控えめに語る。その「カメ感覚」がものを云ったのだろうか。教育者の道を歩むようになる。国学院大学久我山高校で教鞭をとり、多くの後進を育ててきた。一方、地元立川では羽衣町に「羽衣双学舎柔道場」を設立して十年にもなる。

おもに小、中学生を基礎から教えている。子供たちは今、35名くらいになるという。水曜、土曜に道場を開いているが、最近を受験のための塾通いが厳しかったため、他の曜日にも開放している。



道場で乱取りに励む選手たち

また、実弟の森 保夫氏も柔道家で現在六段。道場隣りて接骨院を開いている。最近、立川三中に柔道部が創設され、森兄弟の指導でぐんぐん成績をあげているという。こんな柔道環境も、ひとえに森氏の「カメ感覚」が築いてきたものと云えよう。そんな中にあるのも、森七段の自ら鍛える日常は衰えをみせない。森氏独特の「現役感覚」といえよう。今回「全国柔道高段者大会」において、二十回出場という偉業を講道館から表彰されたのも、氏の並みはずれた粘り強さを現わしているのだ。

この指導者を得て、立川は相撲に続いて「強豪」の仲間入りが出る日も速くないであろう。しかし、森氏自身はもっと先を見つめているようだ。「本当に柔道が生きてくるのは、子供たちが成長して社会人になってからじゃないですか。挨拶ひとつにしても、武道を身につけた子はどこかちがいます」。立川は今、確かな指導者を得た。



今日の総括、明日への夢……

表紙は語る

まい あーと・切り絵 「鳴砂山へ」 by 遠藤須磨子

作者の遠藤さんは、「立川切り絵友の会」の会長さんである。砂川公民館で切り絵の講座が開かれた。そこに参加したのが、遠藤さんと切り絵を結びつけた最初であった。講師が本本有太可先生で、今日でもグループは先生の指導を受けている。昭和58年以来というから8年ほどにもなる。

ところで、表紙の切り絵のモチーフになっている「鳴砂山」が去年、実際に旅をしてきて、「中国の敦煌の近くなんです。砂漠のなかにある砂山という感じがなんです。ふもとに、月芽泉という有名な湖がありましてね、何故そんなに有名かというところ、二千年以上に亘って、砂漠のなかにありながら水を絶やしたことがないんだそうです。ええ、三か月形をしたたとも奇麗な湖でした」。

切り絵の魅力を知ると、「とてもひと口じゃ云えませんが、省略された強さをどう表現するかじゃないかしらね」。

次のモチーフは何だろうか。

三豊の自動つみたて定期預金 大三豊銀行 立川支店

ことわざ 漢字一字挿入せよ

▼わが身の事はに問え

▼船頭おおくしへ

8月3日(土) 吉例 花火大会

宛天の場合は翌日開催 於・国立昭和記念公園

しぶしに成り、秋には黒く熟す。牧野植物園鑑によれば、若い葉と茎とにびっしりと赤紫の毛があつて美しく、この色をエビにみたくてその名があり、古名はエビカズラとも云って後にブドウと言ふ名になつたと訳されている。このあたりは思いがけない自生植物に出合ふ散歩道でもある。さて、今立川に自然の雑木林が出来つつある。と言つても、今時そんな所が、と疑問に思ふだろうが、基地跡地北側の広い場所、基地跡地利用計画では「留保地」と言つて今は計画のない荒地、二十年近くも放置されていると先づ植生の大きな変化に気づく。かつての芝地から雑草地へ、そして今はヤマザクラやエノキ、ウルシなど大小数々の雑木が生え、百年はかかると言われている美しい雑木林へ、自然淘汰の初期を迎えている。いつかはこの地も開発で夢と消えていくことだろうか。

(鈴木 功)



化に気づく。かつての芝地から雑草地へ、そして今はヤマザクラやエノキ、ウルシなど大小数々の雑木が生え、百年はかかると言われている美しい雑木林へ、自然淘汰の初期を迎えている。いつかはこの地も開発で夢と消えていくことだろうか。

真如苑だより

暑い日がつづきます。夏休み、旅行に出られる方も多いでしようが、立川の夏もすてたものじやありません。諏訪まつり、花火大会、ミス・コンテスト・。苑も涼しくしてお待ち申します。

■日時 8月21日(木) 午後2時~4時

御本尊、真如宝物館をはじめとして映画など盛りだくさんの用意がしてございます。

■立川市民(成人)に限らせて頂きます。

■お申し込みは「えくてびあん・コンパニオン」(本誌を手渡してくれた人)へ。



そののの頭 2つ頭の頭

そののの頭 2つ頭の頭

サンバーナデインから今年も交換留学生

アメリカの姉妹都市であるサンバーナデイン市から今年も4人の高換高校生が到着。7月2日、市民会館

内の子チモンドにおいて歓迎パーティーが開かれた。高校生4人は、旅の疲れもみせず、立川に滞在中に何を学びたいかなど、日本語でスピーチをして会場をわかせた。

また、立川ではホームステイを實行するが、里親が紹介されてパーティーは終始なごやかに進められた。なお、この交換留学生制度は昭和37年からで、今年で29回め。

「けやき出版」の十周年おめでとう

十年前の七夕の日に(なんと!)う詩(ころー)、立川の良心を出版してゆこうとスタートした「けやき出版」が七月八日、その十周年を祝う会を開いた。

この日、平安閣に集った方々は立川の知識人、同社の出版物に寄与した著者、写真家、書店など60名あまり。清水定社長をはじめとして、それぞれに語り尽くせない積年のエピソードに共鳴の聲があがっていた。これからの十年が「飛躍」の歳月であらんことを。

立川クイズ

夏祭りの季節となりました。今までは、諏訪まつり、に向けて日に盛り上っております。そこで今回は諏訪神社についてのクイズをひとう。

諏訪神社(延喜町)は、たいへん古い歴史のある神社として、その昔、信州諏訪大社から立川に勧請されたということですが、さて

それはいつ頃のことでしょうか。

①平安時代初期 ②鎌倉時代末期 ③室町時代中期

【7月号の答え】

もともとは、残堀川と玉川上水は砂川三番のあたりで合流していましたが、その後、残堀川が上水の下を流れるようにしたのですが、生活廃水のため残堀川が増水してしばしば氾濫。そこで昭和38年、玉川上水を地下にもぐらせ、残堀川の下をくぐるようにしたのです。

えくてびあん 8月号

発行所 立川市立川町2-20-15

電話 042-570-0882

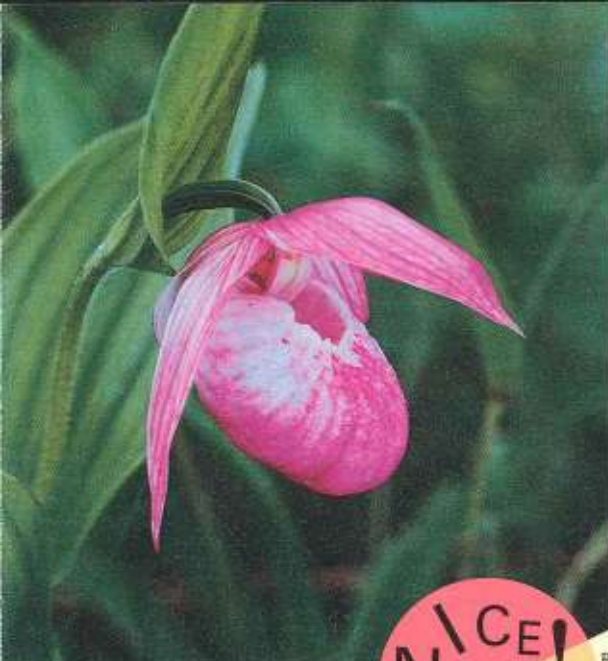
編集人 立井俊介

発行人 沖野嘉男

印刷所 協大出版

散歩は、心身の健康によいも古来いわれてきたが、生活のなかにきちんと組み込んでいる人はそう多くはないようである。●巴里の街を歩いていた、フランスの友人に会った。お茶でも、と誘ったら断られた。今は散歩中だと云うのである。この話をベルリンで活躍している四戸世紀さんが立川に一時帰ってきている時にはなしてみると、いかにもヨーロッパ人らしいと笑った。●諏訪の森から歴史民俗博物館までのウォークラリーに参加して、実に「いい汗」をかいた。ぶらぶら歩きにはない、一種の緊張感がある。かと云って老人や子供には無理というのではなく、一応の健康体をそなえていれば誰にでも出来る。ところへ「散歩」とそっくりである。与えられた地図の見方が慣れるまでに少し時間がかかるが、段々慣れてくる快感もまたいい。どのくらいの速さで歩いたらいいのかわからない。それは隠された「ある時間」が決まられている。それに一番ちがいが優勝というのもしも酒落ている●ノルウェーでロスカントリー大会に行きあわせることがある。本格的なルールで大規模なものであったので、だれもが「早いもん勝ち」と決めて先を競ったが、表彰式で順位が発表されてみると、全体の平均時間に一番近い者が優勝という、会場は笑いの渦で、和やかな空気の表彰式を今に忘れない。●朝顔や、利休ごのみに、えくてびあん

東風



■ひそやかに（アツモリソウ）



宮城直子さん(曙町2丁目)
愛機⇒アサヒペンタックスSFX

新連載
影った。シャッターが軽い。



野尻和男さん(柴崎町1丁目)
愛機⇒ミノルタα7700i

私の傑作選

誰のアルバムにもキラリと光る一枚がある。

NICE!
SHOT



■おいしそラッ